

平成28年3月4日

大学基準協会の法科大学院認証評価における実地調査の際の
期末試験等の問題及び答案の取扱とその保管について

公益財団法人 大学基準協会
法科大学院認証評価委員会

- 1 各法科大学院が事務局の管理のもとに保管すべき問題及び答案は、実地調査時に提示を求めない問題及び答案も含め、講義科目に属する全科目のもの（兼任教員の担当科目も含む。）とする。ただし、演習科目であっても、定期試験が実施され、その結果をその科目の評価に際して5割以上の割合で考慮するものとされている場合には、その科目の問題及び答案も含む。

なお、兼任教員の担当する科目の問題及び答案の保管方法については、法律基本科目に属する講義科目（及び演習科目であっても、定期試験が実施され、その結果をその科目の評価に際して5割以上の割合で考慮するものとされている科目を含む。）を除いて、各法科大学院の定めるところによる。

- 2 問題及び答案の保管期間は、実地調査時に提示を求めない問題及び答案も含め、3年とする（平成29年度に評価を受ける場合は、平成26年度から保存となる。）。

- 3 実地調査時に用意する問題及び答案は、評価を行う前年度の前期及び後期（3学期制以上の場合はそのすべての学期）とする。ただし、上記の保管期間及び実地調査時までの問題並びに答案の提示を求めることもある。

- 4 実地調査で準備する問題及び答案は、法律基本科目に属する全講義科目のものとする。ただし、演習科目であっても、定期試験が実施され、その結果をその科目の評価に際して5割以上の割合で考慮するものとされている場合には、その科目の問題及び答案も含む。また、他の科目の問題及び答案の提示を求めることもある。

なお、成績評価体制全体のあり方について確認を要する場合などにおいては、他の科目の問題及び答案の提示を求めることもある。

- 5 答案は、成績評価の付されたものであること。コピーでも電子データでも良い。

- 6 学期中の小テストやレポートを加味して成績評価を行っている場合、それらの保管については説明責任の観点から奨励されるが、これを義務づけることはしない。

ただし、それらの小テストやレポートと期末試験の配点の厳格性、適切性について報告書及び面談で説明を求める。

以上